

活動報告

春の議員インターンシップの受け入れを行いました

2019年2月から3月にかけて、大学生のインターンシップ生を受け入れました。今回も議会傍聴やポスティングなど様々な活動をともにし、市内行事にも一緒に参加しました。まちの30年後を考える政策コンテストへの参加や高校生に政治に興味をもってもらうための政策立案なども行ってもらい、私も一緒に学ぶことができました。



「税金の使い道を知ろう!」講座や 「Dialogue FUKUSHI」などのイベントを実施しました

2019年は市政報告会だけでなく様々な機会で皆さんとともに考えていくべきイベントを実施しています。3月9日(土)には「税金の使い道を知ろう!」講座を開催、3月24日(日)には福祉について対話をする「Dialogue FUKUSHI」にてお話をしました。今後も引き続き開催していくことを考えていますので、ご興味ございましたらぜひご参加いただければと存じます。

※イベント案内はFacebookを中心に行っています。



議会内容をグラフィックレポートで 発信中

グラフィックレポートにて議会の内容をブログやFacebook、Instagramで発信しています。ぜひご覧になっていただければと思います。



しまづはるか後援会

〒676-0071 高砂市伊保東2-2-23
TEL/FAX:079-439-2733
ホームページ: <http://shimazuharuka.com>
E-mail:shimazu.takasago@gmail.com

日々の活動を発信しています

ブログ: <http://shimazuharuka.com/blog>
Facebookページ:島津明香
Twitter: @shimazu_haruka



しまづはるか

ー若い視点で未来を創るー

市政報告 News 24号

高砂市議会議員、島津明香の市政報告Newsです。
2019年度最初の市政報告Newsで、当初予算を可決した3月定例会の報告を中心に掲載しています。
ぜひこの度も手にとっていただき、ご意見を頂戴できればと存じます。

トピックス



3月定例会(2019年2月26日~3月27日)
での一般質問や予算質疑についてお知らせ



2019年1月~3月までの
主な活動をご報告



当初予算

2019年度

しまづはるかの
質疑!



島津

“スマートフォンアプリ”導入事業

他市でもダウンロード数が35%程度であるが、なぜ導入するのか。



答弁

市民満足度調査でもアプリの希望が増えてきている。ホームページでは情報を検索しづらいため、より情報を届けるために導入する。



島津

“東京23区UJITURN”支援金事業

内閣府が主導する、東京23区からの移住者に支援金を出す事業

移住者をお金で呼ぶような事業。国主導とはいって、制度を実施しない選択肢もあったと思われるが、実施の理由を伺う。



答弁

首都圏の人々が地方に行かない理由の一つに、経費がかかることがある。市独自で国の制度に上乗せすることも可能ではあったが、今年度はしない予定である。



島津

“にこにこポイント制度”事業

国の補助金は今年度までであるが、来年度以降の制度実施の見通しはあるのか。



答弁

今のスケジュールでは、2020年2月までの抽選で最後になる見通し。今年度1年間で方針を明確にさせたい。



答弁

制度を楽しめている方も非常に多い。制度をなくすのであれば、早い段階での周知が必要なのではないか。

十分に周知ができるスケジュールで方針を立てていきたいと考えている。



島津

“不妊治療助成”事業

現状、夫婦所得730万円の所得制限があり、所得制限で除外されるため多額の治療費が必要であるとの声を多く伺う。事業導入当初、制度から外れる所得の世帯は全体の10%程度とのことであったが、実態もそのとおりなのか。



答弁

首不妊治療助成の所得制限は平成19年度に650万から730万円に見直しされており、当時の児童手当の支給率90%を見込んで設定したものとなっている。

今後の
課題

平成19年度と比較し、女性の社会進出も盛んになっている今、まずは実態把握が必要ではないか。

一般質問

2020年度新学習指導要領への対応について

2020年度から小学校で実施される新学習指導要領への対応について、特に外国語教育とプログラミング教育においては市の特色が出しやすい分野であると考え、質問しました。

＊ 外国語教育について ＊

Q. 高砂市において重視することは何か伺う。

A. 自らの考えを、意見を伝え、主体的責任感をもって、チャレンジ精神がもって行動できる能力や態度、国際社会においてふるさとの魅力を発信する力を育てることが大切であると考えている。

Q. 具体的な人員配置などはどうのように考えているのか。

A. 2016年度にALTを2名増員して、6名体制で外国語教育の推進に取り組んでいる。今後もALTを効果的に活用するとともに、英語専科指導員については学校現場の意見を聞きながら検討したい。

※ALT:AssistantLanguageTeacherの略。日本人教師を補佐し、生きた英語を子どもたちに伝える英語を母語とする外国人を指す。

＊ プログラミング教育について ＊

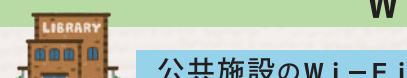
Q. 2020年度からのプログラミング教育はどう取り組む予定か伺う。

A. 現在は新聞づくりや発表資料づくりを通して、ICT機器を活用するためのカリキュラムを実施している。今後は各教科のカリキュラムを横断的にプログラミング教育に位置づけ、論理的思考の育成に取り組みたい。

Q. 2018年度には大学教授よりプログラミング教育の目標や教員研修の進め方等を助言いただいた。今後も大学との連携をさらに進めるとともに、地元企業等の情報収集にも努めたい。

A. 2018年度には大学教授よりプログラミング教育の目標や教員研修の進め方等を助言いただいた。今後も大学との連携をさらに進めるとともに、地元企業等の情報収集にも努めたい。

Wi-Fi整備について



公共施設のWi-Fi

多くの方々からご意見をいただいたWi-Fi整備について、市の考え方を伺いました

学校のWi-Fi



全小中学校について接続回線速度1Gbpsのものを設置しているため、高速インターネット整備はできているものの、無線化はできていない。今後はICT環境の充実に合わせて、教室内での無線LANについても考えていきたい。



高砂市